

平成30年度

兵庫県立視覚特別支援学校

支援部

アイ・あい だより



7月号

ついに真夏が到来しました。夏休みを楽しく過ごすためにも、暑さに負けない健康的な生活を心がけていきたいですね。暑いからと言って冷たい物ばかり食べても内臓を冷やして夏バテするだけです。濡れたタオルで体を拭くことが、体の熱を取る最適な方法です。ぜひ、試してみてください。

本校では、夏休み中に研修会や行事を計画しています。たくさんの方の参加をお待ちしております！



## 研修会のお知らせ

### 「見えない・見えにくいってどんなこと？」

～視覚障害のガイドヘルプ&点字体験～

日時 平成30年7月30日(月) 9:30~15:00  
 対象 視覚障害や点字に興味がある方(中学生以上)  
 内容 「視覚障害ってなあに？」  
 全盲と弱視について、視覚障害者の立場からなど。  
 「ガイドヘルプってなあに？」  
 街中で視覚障害者を見かけたときに役立つポイント  
 「点字ってなあに?①②」  
 身近にある点字の紹介、点字盤で書いてみるなど。

### 弱視教育研修会

日時 平成30年8月3日(金) 9:50~15:30  
 対象 小中学校等に在籍する弱視児童生徒を担当する教職員  
 弱視教育に関心のある関係者 本校教職員  
 内容 講演 「弱視児の漢字指導」  
 講師 点字学習を支援する会 会長  
 かんじクラウド株式会社 取締役会長 道村 静江氏  
 体験活動「弱視キットによる弱視体験」  
 視覚障害関連機器の展示・見学



## 視覚障害者向けパソコン体験講座



日時 平成30年8月2日(木) 9:00~11:30  
 対象 視覚障害児・者、支援者で音声ガイドソフトに興味のある方  
 定員 10名  
 内容 音声ガイドソフトを活用した基礎的なパソコン操作の講習

## 点字の歴史



石川倉次

ブライユの考案した6点式点字は、今では世界中で用いられています。では、日本語の点字はどのようにして誕生したのでしょうか。〈日本語の点字〉

わが国でブライユの点字が実際に用いられたのは1887(明治20)年、東京盲啞学校(現・筑波大学附属視覚特別支援学校)教頭の小西信八が、生徒の小林新吉に教えたのが最初だそうです。たちまち読み書きを習得し歓喜する姿を見て、小西は点字の有用性を確信したそうです。

同年、小西は同校教員の石川倉次にブライユ点字の日本語への翻案を依頼しました。依頼を受けた倉次でしたが、すぐに大きな問題に直面します。ブライユ点字は6点点字のため、アルファベットを表現するのは十分可能ですが、日本語は表音文字だけでも100を超え、6点式では無理がありました。そのため倉次は8点式(左3点・中央2点・右3点の3列)での研究を進めました。しかし、小西からは世界との共通性を理由に6点式での研究のやり直しを助言されました。

8点式の道が閉ざされて途方に暮れた倉次でしたが、一つの解決策を導き出します。それは、前置付加点方式(清音文字の前に濁点符等を置いて2マスで1文字を表現する方法)です。清音を1マス、濁音や拗音を2マスで表現することにしました。確かに、前置付加点をつけることで、速読していると濁音・半濁音などに気づきやすくなりますね。

こうして完成した倉次の案を含めた三つの有力な案が出そろったところで「点字選定会」が開かれました。選定会は教職員ばかりでなく生徒をも交えた全校を挙げての会議でした。一部の教員だけでなく実際点字を使用する生徒も会議に出席するとは、果てしない試行錯誤の様相がうかがえますね。

1890(明治23)年11月1日の第4回選定会で、50音の構成が最も合理的であった石川倉次の案を採用することが決定されました。この11月1日は現在、「日本点字制定記念日」とされています。

さらに、1901(明治34)年の官報に「日本訓盲点字」として発表されました。これをもって点字は日本における盲人用文字と公認されたのです。

この功績により、石川倉次は「日本点字の父」とたたえられています。